

Development of the empowerment scale for family caregivers of community-dwelling people with dementia in Japan

坂梨, 左織

<https://hdl.handle.net/2324/4060021>

出版情報 : Kyushu University, 2019, 博士 (看護学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :

氏名	坂梨 左織			
論文名	Development of the Empowerment Scale for Family Caregivers of Community-Dwelling People with Dementia in Japan (地域に在住する認知症の人の家族介護者のエンパワメント尺度の開発)			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	谷口 初美
	副査	九州大学	教授	樗木 晶子
	副査	九州大学	教授	鳩野 洋子

論文審査の結果の要旨

エンパワメントとは自らの力を発揮し健康をコントロールすることであり、家族介護者の身体・精神的負担の軽減や自己効力感の向上に有効である。

本研究の目的は、地域に在住する認知症の人の家族介護者のエンパワメント尺度 (EFCD) を開発し、その信頼性と妥当性を検討することであった。

家族介護者 820 名を対象に自記式質問紙調査を実施した。調査にあたり、家族介護者と高齢者ケア専門家へのインタビューデータからアイテムプールを作成し、内容妥当性を検討した 36 項目の尺度原案と日本版介護自己効力感尺度 (J-RSCSE)、精神健康調査票 (GHQ12-J) を用いた。EFCD 尺度開発手順として、構成概念妥当性は項目分析と探索的因子分析、基準関連妥当性は 3 つの尺度間との Spearman 相関係数、信頼性は Cronbach α 係数、級内相関係数 (ICC) と Bland-Altman 分析で確認した。最終モデルを確認的因子分析で確認した。

304 名 (37.1%) のデータから探索的因子分析により、最終版 EFCD として 16 項目 4 因子構造: 1) 卓越した認知症介護の実践、2) 認知症介護の本質の理解、3) 認知症の人と自己を意識した関わり、4) 共に活動する仲間の存在を確認した。これらは、Cronbach α 係数は 0.90、ICC は 0.51、Bland-Altman 分析では系統誤差はなく信頼性を示した。最終モデルの適合度が許容可能であり構成概念妥当性を示した。以上より、尺度の信頼性と妥当性が確認された。

このことから、本研究で開発したエンパワメント尺度 EFCD は、日本の認知症の人の家族介護者のエンパワメントを評価できる簡便で有用な尺度であり、保健指導に活用できる意義ある研究結果と考えられる。予備調査において、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答をえた。よって本論文は予備調査委員合議の上、博士 (看護学) の学位に値する論文として価値あるものと認める。

主査 谷口初美
副査 樗木晶子
副査 鳩野洋子